

「平成28年(2016年)熊本地震」について(第6報)

地震の概要

検知時刻：4月14日21時26分

(最初に地震を検知した時刻)

発生時刻：4月14日21時26分

(地震が発生した時刻)

マグニチュード：6.5(暫定値；速報値6.4から更新)

場所および深さ：熊本県熊本地方、深さ11km(暫定値；速報値約10kmから更新)

発震機構：南北方向に張力軸を持つ横ずれ断層型(速報)

震度：【最大震度7】熊本県益城町(ましきまち)で震度7、玉名市(たまなし)、西原村(にしはらむら)、宇城市(うきし)、熊本市(くまもと)で震度6弱を観測したほか、中部地方の一部から九州地方にかけて震度5強～1を観測しました。

防災上の留意事項

この地震による余震が多数発生しています。揺れの強かった地域では、家屋の倒壊や土砂災害などの危険性が高まっているおそれがありますので、今後の余震活動や降雨の状況に十分注意してください。

余震活動の状況

15日00時03分には、熊本県宇城市で最大震度6強を観測する余震(M6.4、暫定値)が発生しました。15日15時00分現在、震度1以上を観測する余震が134回発生しています(震度6強1回、震度6弱1回、震度5弱2回、震度4:16回、震度3:23回、震度2:54回、震度1:37回)。

今後の余震活動について、ところによって震度6弱以上の揺れとなる余震が発生する可能性は、4月15日16時から3日間で20%、震度5強以上となる可能性は40%です。

余震回数は速報値で、後日の調査で変更になることがあります。

気象庁機動調査班(JMA-MOT)の調査状況

気象庁機動調査班(JMA-MOT)は、本日(4月15日)、熊本県内で震度7～6弱を観測した震度観測点及びその周辺を中心に、地震動による被害調査及び震度観測点の状況確認を実施しています。

調査の結果、震度7を観測した「益城町宮園」観測点の状況を確認し、震度計台や周囲の地盤等に異常は認められませんでした。

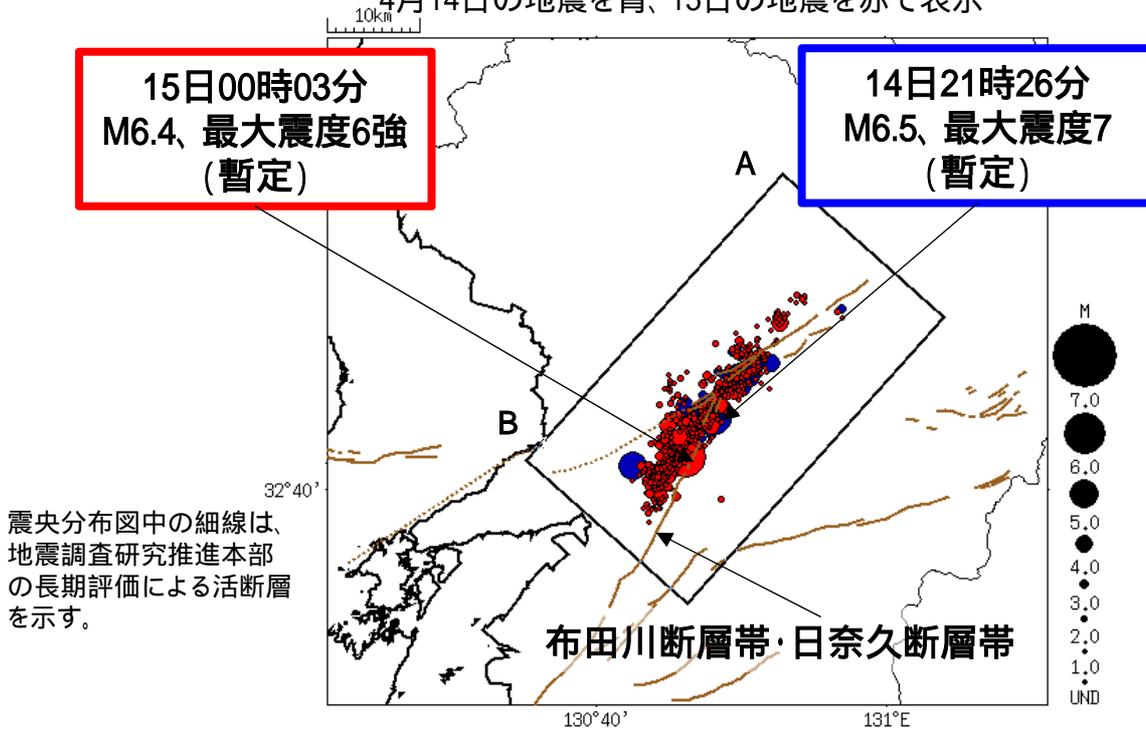
その他の観測点及び周囲の被害状況の調査を引き続きおこなっています。

「平成28年（2016年）熊本地震」 余震活動の状況（4月15日14時00分現在）

震央分布図

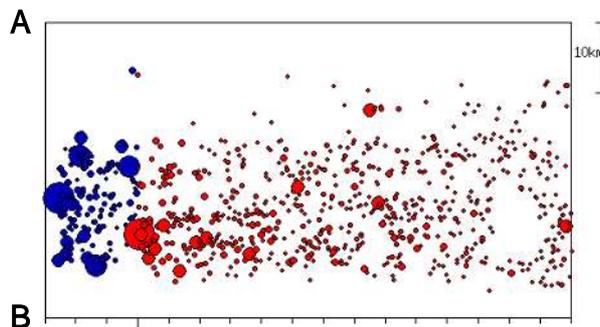
（2016年4月14日21時00分～15日14時00分、M全て、深さ0～20km）

4月14日の地震を青、15日の地震を赤で表示



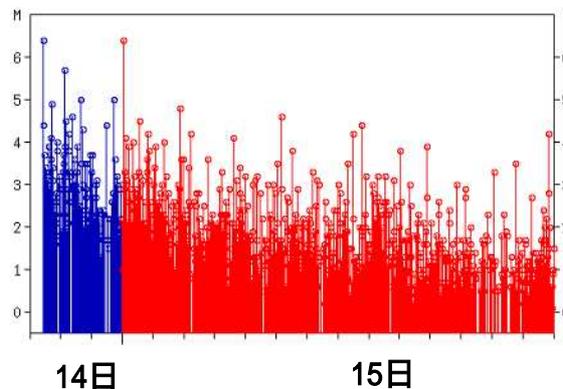
震央分布図の四角形領域内の時空間分布図(A-B投影)

横軸は時刻、縦軸のA・Bは震央分布図の四角形領域の両端のA・Bに対応する。



震央分布図の四角形領域内の地震活動経過図

横軸は時刻、縦軸はマグニチュード、縦棒のついた丸は地震発生時刻とマグニチュードの大きさを表す。



<資料の利用上の留意点>

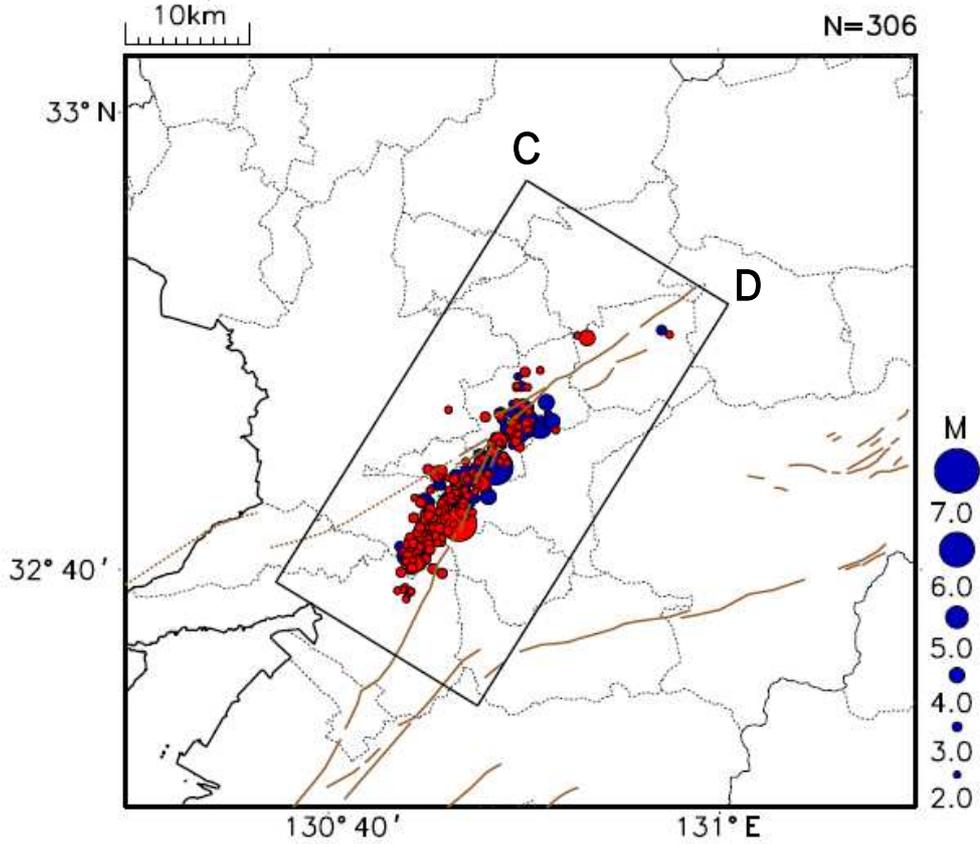
- ・表示している震源は、自動処理による結果です。
- ・発破等の地震以外のものや、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがあります。
- ・個々の震源の位置や規模ではなく、震源の分布具合や活動の盛衰に着目して地震活動の把握にご利用ください。

「平成28年（2016年）熊本地震」 余震分布の鉛直断面図（4月15日11時00分現在）

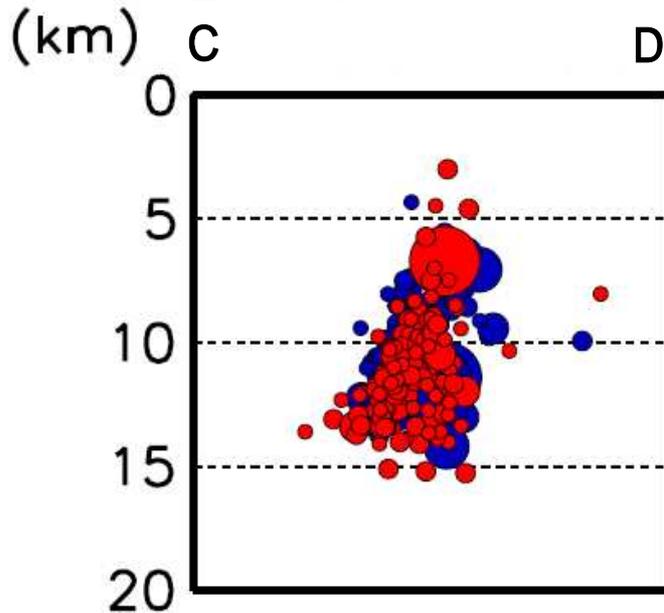
震央分布図

(2016年4月14日21時00分～15日11時00分、M 2.0、深さ0～20km)

4月14日の地震を青、15日の地震を赤で表示

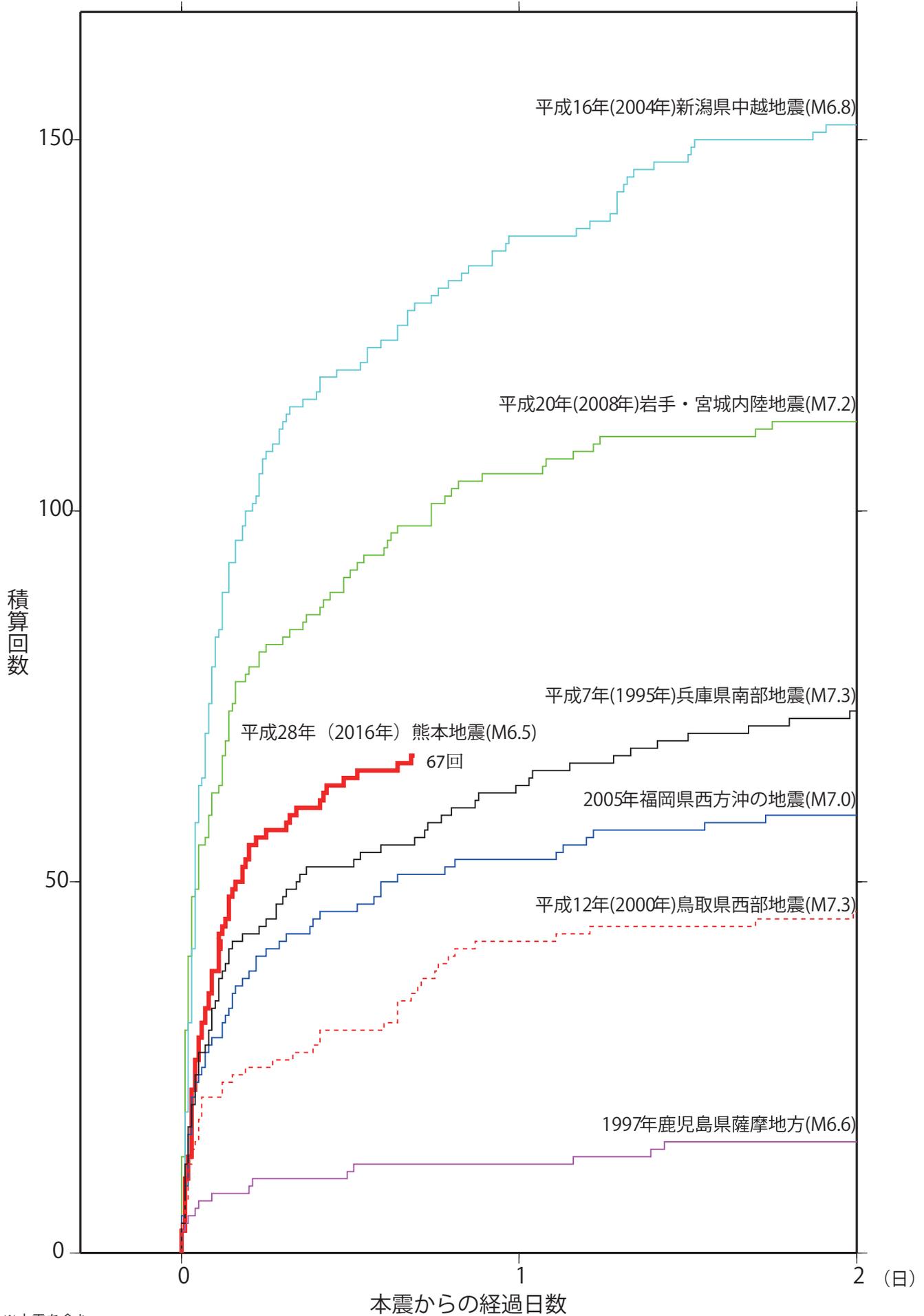


上図の四角形領域内のC-D断面図



縦軸は深さを表し、丸の大きさはマグニチュードの大きさを表す。

内陸及び沿岸で発生した主な地震の
余震回数比較（※本震を含む）（マグニチュード3.5以上）
2016年04月15日14時00分現在



※本震を含む。
※この資料は速報値であり、後日の調査で変更することがあります。

「平成 28 年（2016 年）熊本地震」の余震発生確率について

余震は引き続き発生していますので、十分に注意してください。

余震活動は時間の経過とともに減衰しているものの、今後なお 1 週間程度は、震度 5 強ところによっては震度 6 弱の揺れとなる余震が発生するおそれがあります。本震によって強い揺れとなった地域では、余震によって家屋の倒壊や土砂崩れなど、さらに被害が拡大するおそれがあります。

4 月 15 日 09 時現在までの余震発生状況から推定した余震発生確率は以下のとおりです。

	マグニチュード 6.0 以上	マグニチュード 5.5 以上
4 月 15 日 16 時から 3 日間以内	20%	40%
4 月 18 日 16 時から 3 日間以内	10%未満	10%

マグニチュード 6.0： ところによって震度 6 弱程度になる可能性がある

マグニチュード 5.5： ところによって震度 5 強程度になる可能性がある*

* 震源直上ではこれよりも震度が大きくなる可能性があります。

（次の更新は、4 月 18 日頃の予定です。）

・余震発生確率を算出するにあたっての前提

これまでの地震活動の推移から、本震 余震型の活動であると判断しており、本震 余震型であることを前提として、余震発生確率を算出しています。

・本震 余震型の特徴

本震 余震型の地震活動では、最初に最も規模の大きい本震が発生し、それに続いて余震が多数発生します。余震の発生数は大局的には時間とともに徐々に減少していきます。ただし、余震の減少の仕方は様々で、単調に減少していくこともあります。場合によっては減少していく過程で増減を繰り返すこともあります。

・余震発生確率の意味

ある大きさの余震に注目した場合に、その大きさの余震が、ある時点から 3 日間とか 1 週間等の期間内に発生する確率を余震発生確率と言います。例えば、マグニチュード 6 以上の余震がある時点から 3 日間以内に発生する確率が 30%である場合、3 日間以内にマグニチュード 6 以上の地震が必ず発生するとは評価されませんが、全く発生するおそれはないという評価でもありません。同様の地震活動がある場合であれば、10 回のうち 3 回については 3 日間以内にマグニチュード 6 以上の余震が発生するという意味です。